

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 一宮市立西成小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒491-0005

愛知県一宮市西大海道字障子目30番地

E-mail nisina-e@city.ichinomiya.aichi.jp

Website http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/~nisina-e/

幼児児童生徒数 男子 178名 女子 173名 合計 351名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校では、ESDを「人・自然・社会との関わりやつながりを尊重できる個人を育む教育」という視点でとらえ、環境・人権・国際理解・伝統文化の領域での学習を深め、総合的な人間力を育むことをねらいとしている。書籍や映像による知識や理解にとどまらず、体験を通して学ぶことをめざし、自律心、思考力、判断力、実践力の育成を図ると共に、人・自然・社会とのつながりを尊重できる児童の育成を目標としている。本年度は以下のように実践してきた。

(ア) 環境教育に関する活動

環境に対する責任と役割を理解し、環境問題に主体的に取り組む態度を育てるために、『環境センターやごみ処理場の見学(4年生)』『地域の資源回収と分別&運搬作業(4年生)』『身近な水辺環境の保護に向けたヤゴ救出作戦(2年生)』『地元のJAの営農指導課の方の指導を受けた米作り(5年生)』『自らの手で花が咲くまでの苦労を体験する一人一鉢運動(全学年)』を行った。

(イ) 人権教育に関する活動

偏見や差別を許さず、互いの人権を尊重し、望ましい人間関係を築くことができる態度を育てるために、『地元の特別支援学校とのゲームや歌・スポーツなどを通じた交流活動(全学年)』『障害のある方を講師に招いて車いす・手話・点字などの実践を行った福祉実践教室(4年生)』『児童会を中心にいじめ防止啓発活動を行った人権活動(児童会)』などを行った。

(ウ) 国際理解教育

異文化を理解・尊重し、国際協力に貢献できる態度を育てるために、『全校児童に呼びかけて発展途上国の恵まれない子供にワクチンを送るエコキャップ運動(児童会)』『ニュージーランドの国際交流員を中心とした異文化交流(全学年)』を行った。

(エ) 伝統文化に関する活動

郷土の文化や歴史を尊重する態度を育てるために、『地域の方の指導のもと栽培活動を行った西成ダイコンの栽培(3年生)』『市の歴史や文化財などについて学習した市立博物館見学(3年生)』などを行った。



(ア) 環境に関する活動



(イ) 人権に関する活動



(ウ) 国際理解教育



(エ) 伝統文化に関する活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

(ア) 環境教育に関する活動

環境に対する責任と役割を理解し、環境問題に主体的に取り組む態度を育てる。

・社会見学(4年生、6月)

市の環境センターと佐千原浄水場を見学し、ごみや水の処理について学び、自分たちが環境保護のためにできることを考えることができた。

・資源回収(4年生、6・10・3月)

地域の資源回収に参加し、分別や運搬作業を手伝うことで、資源の大切さと奉仕活動の尊さを知ることができた。

- ・ヤゴ救出作戦(2年生、6月)
プール清掃の際に2年生がプールに生息するヤゴを捕り、とんぼに羽化するまで世話したり、観察したりした。身近な水辺環境とそこに住む水生生物の生態について学ぶことができた。
- ・米作り(5年生、6～11月)
JAの営農指導課の方を招き、田起こしや田植えの指導のもと、校地内の田で稲を育てた。稲刈り、収穫、精米、そしてお米の調理まで行い、学習した米作りについてまとめることができた。
- ・一人一鉢運動(全学年、12月～3月)
パンジーの苗を一人ずつ鉢に植え、自らの手で育て、花が咲くまでの苦労を体験することができた。卒業式には、その鉢を式場全体に並べ、卒業式の会場を華やかに飾る予定である。

(イ)人権教育に関する活動

偏見や差別を許さず、互いの人権を尊重し、望ましい人間関係を築くことができる態度を育てる目標で取り組んでいる。

- ・一宮東特別支援学校との交流(全学年、6・10月)
6月と10月に、一宮東特別支援学校の児童と交流活動を行った。互いに学校を訪問し合い、自分たちで企画したゲームや歌、スポーツなどを一緒に行った。1年時から同じペアで活動することで6年間の積み上げができ、相互理解を深めることに役立っている。
- ・福祉実践教室(4年生)
障害のある方を講師として招き、手話・車いす・点字を体験することができた。
- ・いじめ防止活動(児童会、12月)
全校集会で、児童会役員がいじめ防止啓発劇や意見発表を行なった。児童会役員が企画することで、児童の目線に合った啓発活動をすることができた。

(ウ)国際理解教育

異文化を理解・尊重し、国際協力に貢献できる態度を育てるという目標で取り組んでいる。

- ・エコキャップ運動(児童会)
児童会が全校に呼びかけてエコキャップや毛布を集め、発展途上国の恵まれない子どもたちにワクチンを送った。こうした活動により、発展途上国の実態について知り、小さな力を集めて国際貢献できることを知ることができた。
- ・国際交流(全学年、10月)
ニュージーランドの国際交流員が訪問し、異文化について、話を聞いたりゲームや歌を体験したりすることにより、その国を理解することができた。

(エ)伝統文化に関する活動

郷土の文化や歴史を尊重する態度を育てる。

- ・西成ダイコンの栽培(3年生)
地域の方の指導のもと、地域の特産である西成ダイコンを栽培した。種まき、間引きから収穫まで行い、地域の農作物について学んだ。学習したことをグループでまとめ、学習発表会で発表した。
- ・市立博物館の見学(3年生)
市立博物館の見学を通し、市の歴史や文化財、民具などについて学習し、調べたことをまとめて発表した。社会科の「古い道具と昔の暮らし」の指導に役立った。子どもたちは、人々の生活の変化に気づき、自分たちの生活の歴史的背景にいつそう興味・関心を持つことができた。

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

<p>本校では、ユネスコスクール及びESDの活動を「人・自然・社会との関わりやつながりを尊重できる個人を育む教育」という視点でとらえ、課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成した。具体的には、『環境』『人権』『国際理解』『伝統文化』の領域で、総合的な学習の時間を利用して活動を行った。主として総合的な人間力を育むことをねらいとし、年間計画に指導内容を適切に定め、体験を通して学ぶことをめざし、自律心、思考力、判断力、実践力の育成を図る指導法の工夫改善に努めた。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

各活動を総合的な学習の時間の年間計画に位置付け、学校全体で組織的に活動に取り組んでいる。また、学年ごとに中心となるテーマが決まっているので、保護者や地域の人にも活動参加を呼び掛け、地域社会と連携しながら継続的に活動を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

ユネスコスクールの活動を含めた学校の教育活動全般に関する評価アンケートを、年度末に全教職員と全保護者に対して実施した。その結果、様々なユネスコスクールに関する活動は好意的な評価が多かったものの、活動内容を精選する必要性に関する意見も多かった。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

ユネスコスクールに関する活動を行ったときには、学年だよりで紹介すると同時に、ホームページにアップした。PTAの集まりや学校運営委員会で活動内容について説明すると同時に、地域の方たちにも積極的にPRした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

地域の方の協力が得られる場合は、地域の方を講師に招いたりして一緒に活動を行った。また、地元の農協や社会福祉協議会の協力を得ながら様々な活動を実施し、学校以外の様々な団体との協力を推進した。ただ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムなどとの連携はできていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

自校のユネスコスクールに関する活動を推進していくことで手一杯で、他校との交流は全くできていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今まで行ってきた校内の諸活動を、できるだけESDの観点に沿った活動に見直していった。その結果、様々な活動が連携して実施できるようになり、一つの大きな流れの中で活動を行うことができるようになった。さらに、諸活動を積極的に公開して、地域や保護者との連携をさらに意識するようになった結果、地域や保護者に学校の活動がさらに理解されやすくなった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

環境教育に関する活動として、「環境センターやごみ処理場の見学（4年生）」「地域の資源回収と分別&運搬作業（4年生）」「ヤゴ救出作戦（2年生）」「地元のJAの営農指導課の方の指導を受けた米作り（5年生）」「一人一鉢運動（全学年）」を実施する。

人権教育に関する活動として、「地元の特別支援学校との交流活動（全学年）」「障害のある方を講師に招いた福祉実践教室（4年生）」「いじめ防止啓発活動などの人権活動（児童会）」などを実施する。

国際理解教育として、「エコキャップ運動やアフリカへ毛布を送る運動（児童会）」「国際交流員を中心とした異文化交流（全学年）」を実施する。

伝統文化に関する活動として、「西成ダイコンの栽培（3年生）」「市立博物館見学（3年生）」などを実施する。